

昭和十年邦文天文書一覽

水 野 千 里

書 名	著譯者	冊數	頁數	定 價	發行年月日	發 行 所
1. 訓蒙窮理圖解	福澤 諭吉	1	58T	古 ¥ 0.20	明治元年 (六年再版)	慶應義塾同社
2. 地 球	坪井 忠二	1	128P	0.80	昭和 8 V 15	鐵 塔 書 院
3. 潮 汐	小倉 伸吉	1	252	0.80	„ 9 XI 30	岩 波 書 店
4. 天文學史年表	南條 文英	1	53	非 賣 品	„ 9 XI 10	成蹊高等學校
5. 天文學通論	(關口 鯉吉 鈴木 敬信)	1	386	3.80	„ 10 II 28	地 人 書 館
6. 地震とその研究	石本巳四雄	1	336	3.20	„ 10 II 28	古 今 書 院
7. 小 惑 星	平山 清次	1	168	0.80	„ 10 III 25	岩 波 書 店
8. 軌道をめぐる星	鐘田 研一	1	274	2.00	„ 10 IV 14	恒 星 社
9. 曆 と 迷 信	鈴木 敬信	1	221	1.50	„ 10 V 15	„
10. 大 宇 宙 の 旅	村上 忠敬	1	313	2.50	„ 10 VI 16	„
11. 重 力	坪井 忠二	1	261	0.80	„ 10 VI 30	岩 波 書 店
12. 詩は經れた 星	野尻 抱影	1	26	非 賣 品	„ 10初夏	同 仁 會
13. 天文や氣象の話	藤原 咲平	1	308	1.20	„ 10 VII 20	岩 波 書 店
14. 追 悼	安並 馬吉	1	121	非 賣 品	„ 10 IX 15	安並 馬 吉
15. 宇 宙	鈴木 敬信	1	569	3.20	„ 10 X 18	恒 星 社
16. 理科年表 昭和十一年	東京天文臺	1	413	1.50	„ 10 XII 8	丸 善
17. 流星の研究	小槇孝二郎	1	338	2.50	„ 10 XII 18	恒 星 社
18. 天文年鑑 昭和十一年	東 亞 協 天 會	1	172	1.50	„ 10 XII 22	„
19. 天體物理學 (觀測と統計)	關口 鯉吉	1	313	0.80	„ 10 XII 25	岩 波 書 店
20. 日本天文會 學 會 要 報	日 本 天 文 會	#12	118	1.00	„ 10 II 28	日本天文學會
		#13	54	1.00	„ 10 V 18	„
		#14	34	0.80	„ 10 XI 28	„

1. 訓蒙窮理圖解は天文と氣象に關する通俗書で、明治初年に翻譯されたもの。天文の方は引力の事、晝夜の事、四季の事、日蝕月蝕の事が掲げてある。當時の最新知識！

2. 地球は坪井博士が口述されたものを小林勇氏が筆記されたもので、鐵塔科學叢書の一である。

3. 潮汐 大正三年に「潮の理」が発刊された後、潮汐に關するものが二、三發行されたが、通俗に書かれたものは他にない。十餘年來「潮の理」は絶版である。其處で小倉博士が別に稿を起され、海洋の潮汐一般に就て書かれたもので、理論に關する部分は簡單なところで筆を止めてあるが、研究項目及び其の結果の大要は最近の分迄も親切に記してある。觀測の材料及び實際の海洋に於ける研究結果が、我が國近海から多數取入れられて居ることは、洵に喜ばしい。

4. 天文學史年史は成蹊高等學校文化史年表研究會の事業の一つで、年表は藤田速雄氏の努力により、趣意書は前田透氏により、加藤藤吉教授の校閲を経たものである。

5. 天文學通論 山本博士の初等天文學講話を一讀して本書を繙かば了解せられる程度のもので、一般天文學の最も良い書物で、天文學上の最近の事柄迄取扱つてある。

6. 地震とその研究 シンクロノーム自由時計に依つて、地球の自轉が整一のものでなく、極僅少とはいへ差があつて變化することが判つて來た。これは恐らく地球内部の地塊運動に關するものであらう。地震計に感ぜぬ様な微少な地震が起るのが、この時計の威力に因て知られて來た。

天文學者が氣象學の一斑を心得て置く必要があると同時に地震學の方面にも關心を有たねばならぬのである。地震に關する著書も多いが、本書は邦文の地震學の最良なものである。本書の末尾に明治以後に發行された單行本八十種の目録を添へてある。

7. 小惑星 平山清次博士は本邦否世界に於ける、小惑星研究の權威者である。その博士の著はされたものであるから、小冊子とはいへ内容の素晴しくよい書である。

8. 軌道をめぐる星 ジーンスの五名著中の一、天文學に親しみ始めてまだ間のない人に適當したものである。

9. 曆と迷信 天文學を愛好する人々丈けでなく、一般の家庭にも一本を備へられることを奨める。

10. 大宇宙の旅 ジーンス五名著の一、原名は「時間、空間を貫きて」とい

ふのである。「軌道をめぐる星」を讀了してから繙讀され度。

11. 重力 重力に關する單行本として邦文唯一のものであらう。目次第一章重力、第二章重力と地球の形、第三章重力の測定、第四章重力の補正、第五章重力の式と重力異常、第六章重力の分布、第七章鉛直線偏倚とゼオイドの凹凸、第八章重力偏差計、第九章重力と地下構造、第十章重力の時間的變化、第十一章地殻均衡説、事項索引、人名索引、本書は高等數學物理學の素養が十分でないと讀み下せない。

12. 詩經に現はれた星 野尻抱影氏が「同仁」第九卷第四號—第六號に掲載されたものゝ別冊で、詩經に現はれてゐる星——參，畢，昂，定，織，女，牽，牛，箕，火，斗及び啓明（曉の明星）長庚（宵の明星）に就いて述べられたものである。

13. 天文や氣象の話 天文や氣象に關する講演筆記やパンフレットから、十二篇を集めて一冊となつたものゝ中に、天文と氣象の話と曆の知識との二篇がある。

14. 追悼 去昭和九年九月十五日に逝去された、本會員見元了氏の親族知人教へ子等の追悼文六十篇より出來涙なしには讀めない。

15. 宇宙 邦文天文學史の少い現在、古代宇宙觀から膨脹宇宙說までを詳細に述べられた、著者の勞を多とすべきである。

目次—緒言、第一章太古の宇宙觀、第二章ギリシア時代、第三章中世紀時代、第四章地動説をめぐる人々、第五章太陽系、第六章恆星天文學の發達、第七章銀河系、第八章大宇宙の貌、第九章宇宙の始めと終り。

16. 理科年表 18, 天文年鑑 何れも昭和十一年版。六月十九日の皆既日食に特に注意されて居る。

17. 流星の研究 本會流星課長小楨孝二郎氏は十數年來流星の觀測を續行して居られる努力家、その實地の觀測を基とし東西の流星に關する著書を涉獵して成れるのが本書である。

第一章流星の歴史的概觀、第二章流星群と流星の軌道、第三章—第十一章各星座流星群、第十二章流星の觀測法、第十三章流星群の輻射點、第十四章大氣中に於ける流星の經路、第十五章流星の物理的性質、第十六章時間空間

に於ける流星の分布、第十七章隕石と隕石坑、第十八章流星の起源、結論、附録第一章流星實經路の計算法、第二章流星軌道の計算法、事項索引、人名索引。

邦文流星學の最詳密なもので、流星觀測者の必携書である。

19. 天體物理學 天體物理學第一卷(觀測と統計)は關口博士の著、第二卷は萩原博士が執筆中である。第一卷の目次一概觀、第一章天體測光學、第二章天體分光學、第三章太陽物理學、第四章恆星物理學一般、第五章連星及び變光星、第六章星團及び星雲、第七章太陽系の天體、結語、索引、座右に必ず一本を備へねばならぬ。

20. 日本天文學會要報 第十二、三、四號は専門家の一讀すべきものである。

米國の變星觀測者なかま A. A. V. S. O. からの新年賀狀

〔天文學上の重要期日10件〕

むかしニネベのまちの有名な日食は	ユリウス通日で、1442454
バビロンで見た月食は	” 1566839.3708
西曆紀元前十一年のハレイ彗星は	” 1717222
ティピヨの見た大新星は	” 2295277
鯨座ミラ星の發見は	” 2305307
ニュトンの誕生は	” 2321147
アルゲランダの誕生は	” 2378211
A. A. V. S. O. 會員の最初の觀測日は	” 2419292
ヘルクレス新星の發見された日は	” 2427784
A. A. V. S. O. の大發展を期すべき此の新年の元旦は	” 2428169.0000

會長 Harlow Shapley

書記 LeonCampbell.

木邊氏の 30cm 平面鏡完成

(花山急報 190)

花山に於て、シリロスタットのために木邊氏のつくつてゐた直径 30cm の平面鏡は 1935年末に完成した。